

コ - デイネ - タ - としての基本的姿勢

ある懇談会に参加した。テ - マは地域コ - デイネ - タ - の活動に関するもので、親、コ - デイネ - タ - 、保健師のパネラ - に話題提供をいただいたの懇談会であった。パネラ - のコ - デイネ - タ - は、私が企画側に紹介した方であった。

終了後、お礼方々、彼に以下のメールを送信した。

「君のコ - デイネ - タ - としての基本的姿勢の話を安心して聞いていました。それだけに、フロア - の他のコ - デイネ - タ - がどういう想いで聞いていたか。昨日のような基本姿勢をどんどん後輩に伝えてください。」

彼から、後刻、以下の返信があった。

「師匠にお褒めいただき恐縮です。現実にはやっていることはもちろんですが、理想まで言わせていただきました。どうもサービス提供者や行政の構想が先で、あとに利用者の現実やニーズがくるのが気になります。事業が来てから『何するか』じゃなくて、事前に現実を把握して『利用者が望むからコレをする』の方が効率的になのに...

コーディネーターはフリーで動かなきゃいけないのに、自分の施設を説得できないで苦しんでいるのが現実なんです。自分の施設を変えられないで地域を作るなんてできませんよね。だから『地域によってさまざま...』と軽く触れたのですが、師匠のように強くは言えません(^_^;)」

コーディネーターの責務、任務、あるべき姿を、実に端的、明快に触れる返信であるだけに、コーディネーターの指導的立場にある彼の存在は頼もしい限りであり、今後の活躍を大いに期待したい。

彼とは、福祉に関係する者同士としてメ - ルで意見交換する間柄だけで、なぜ師匠呼ばわりされるのか理解出来ないが、こうした若者に師匠呼ばわりされるのは、誠に光栄である。

(2003 年 05 月 11 日 記)